

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 A棟 )

事業所番号	0270101397		
法人名	有限会社 ナナカマド		
事業所名	グループホーム ななかまど		
所在地	青森県青森市野尻字今田53-7		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人ひとりの居室を「家」と考え、安心して生活できる環境作りを心掛けている。  
可能な限り、グループホームで自分らしい生活をしていただきたいと考えており、ケアに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年12月13日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個々の希望に沿った支援を心がけており、介護計画作成にあたっては、利用者や家族はもちろん、職員からの意見を基に作成し、状態の変化に応じた見直しを行っている。  
また、職員は利用者とのコミュニケーションを大切に、好みや希望の把握に努めている他、ホーム利用前からの医療機関を受診できるように、通院支援を行っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域密着サービスの役割を理解し、「家・役割・安心」という理念があるが、内容の共有化や理解を図る取り組みは積極的には行っていない。</p>	<p>「家・役割・安心」というホーム独自の理念を掲げており、管理者・職員は地域密着型サービスの役割及び理念を理解して、日々のケアを実践している。職員は、普段のコミュニケーションを通じて理念を共有化しているが、ホーム内に掲示する等の積極的な取り組みまでには至っていない。</p>	<p>理念を職員や利用者、来訪者が確認できるように見やすい場所に掲示すると共に、重要事項説明書に記載する等の取り組みに期待したい。</p>
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域包括支援センターの歌謡ショーへの参加や行事へのボランティア参加はあるものの、積極的な地域交流はしていない。</p>	<p>地域の催し物や学生の実習及び学生ボランティアの受け入れを行っているが、ホーム行事へ地域住民が参加するまでには至っていない。</p>	<p>町内会に加入する等により、地域行事への参加やホーム行事へ招待する等、地域との交流を増やせるような取り組みに期待したい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>入居申し込みの際、支援内容を検討し、必要に応じて地域に協力を働きかけている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で外部評価の報告を行い、サービス向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、メンバーには開催する2～3週間前に電話にて事前に案内し、参加を促している。会議では、ホームの事業計画や行事内容、自己評価及び外部評価結果等の報告を行っており、目標達成計画を説明して具体的な話し合いを行っている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>評価結果を送付している他、課題については実地指導や電話等で指導をいただいている。</p>	<p>パンフレットや広報誌を配布している他、ホームの運営面における問題点等を、電話や市役所に出向き、指導を受けている。また、自己評価及び外部評価結果についても報告している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>近隣のコンビニエンスストアやガソリンスタンドの協力を得て、無断外出時に備えながら、ケアを実践している。</p>	<p>管理者及び職員は身体拘束の弊害について理解しており、マニュアルを作成し、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。無断外出時には、近隣のコンビニやガソリンスタンド、タクシー会社から協力を得られるようになっている。また、万が一、身体拘束をしなければならない状況に備えて、理由や期間、経過等を記載する仕組みができており、家族等から同意をいただく体制も整っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>マニュアル作成の他、年度内に園内研修を実施する予定である。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>園内研修を行っており、実際、日常生活自立支援事業と成年後見制度、どちらも利用している方がいる。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議等で意見をいただき、意見箱も設置している。</p>	<p>意見箱の設置の他、面会時に意見や要望がないか聞き取りをしている。寄せられた意見は職員で話し合い、改善方法等を検討し、結果を伝える取り組みをしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやケース会議、または日々の会話の中で意見を聞く機会を作っているが、特に時間を設ける等の体制は構築していない。	申し送りや申し送りノートの活用その他、ケース会議や普段の会話等を通じて、職員が話し合いや確認をする機会を設けているが、定例的な職員会議を開催する体制の構築には至っていない。	定例的に職員会議を開催し、理念の確認や運営面に関する話し合いの機会を設けると共に、内部研修等の実施にも期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は概ね職員個々の努力や実績を把握しており、ボーナスにも反映させている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修を実施し、サービスの向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターが主催する会合への参加等を行っている。			
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に本人や家族より情報をいただき、対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の不安に対応できるように、関係作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際に本人や家族としっかり話をし、職員間で話し合い、ケアを行うように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒に生活をする」姿勢を持ち、ケアをするように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大事にし、負担にならないように配慮しながら、共にケアをしているように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで通っていた病院への通院や知人との連絡等に配慮しており、これまでの関係が途切れないように心がけている。	利用者のこれまでの生活状況を把握しており、自宅に行ったり、墓参り等の希望に応じた支援を行っている。また、電話により、友人等と話ができるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の間人間関係に配慮した声がけ、生活空間作りを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族から連絡をいただいた際は対応についてアドバイスをする等、本人の生活に、出来るだけ困らないように心がけている。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	宗教的なお勤めや食事、嗜好を把握し、献立や日常生活に反映させている。	入居前の生活状況や趣味、嗜好を把握し、本人の希望に沿った生活が送れるように支援している。また、意思表示が困難な利用者については、家族からの聞き取りや日常での動作を通じ、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を通して、生活歴や馴染みの暮らしを把握できるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録や情報等を通じて生活のペースを把握しており、ケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見を取り入れた介護計画の作成を心がけている。	利用者本人や家族の意見を反映し、個別具体的な介護計画を作成している。計画の作成にあたっては、職員の意見も取り入れ、状態の変化に応じた計画作りを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に記録を行い、職員間での申し送りやケース会議等を利用して、話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>たくさんの地域資源全てを把握しているわけではないが、今後は地域資源をどんどん活用していきたい。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望を大切に、主治医を決め、通院等の支援を行っている。</p>	<p>ホーム利用前からの受療状況を把握しており、本人や家族が望む医療機関を受診できるように支援している。健康状態や受診状況については、随時電話連絡したり、面会時に伝え、共有化を図っている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>通院時や特変時の連絡等、状態報告をしっかりと行い、支援するよう心がけている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際には面会を行い、病院関係者や家族と連絡を取り合っている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期のケアは行っていない。重度化の場合に関しては、本人や家族との話し合いをしっかりと行い、計画の見直しやケア方針の共有化に努めている。</p>	<p>終末期の対応は行っていないが、重度化した場合の方針について説明をしており、容態が急変した場合の対応方法等についても家族や医療機関との話し合いが行われている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。また、内部研修を計画して対応を確認していく体制である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、避難訓練を実施している。また、運営推進会議で課題となっている地域との協力体制は確立されていない。	万が一に備え、食糧の備蓄や暖房器具等を準備している他、年に2回、避難訓練を実施し、内1回は夜間を想定した訓練を実施している。消火器等の設備点検は業者に委託して定期的に行っているが、地域との協力体制を構築するまでには至っていない。		災害時において地域内の消防団や近隣商店等からも協力が得られるような体制作りに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりへの声かけはプライバシーを損ねないように努めている。入居者との人間関係が出来てくると、慣れ合いになることがあるため、職員は気をつけている。	家庭的な関係で生活をする中においても、利用者一人ひとりの人格とプライバシーの尊重に努め、利用者の立場に立ったケアに努めている。また、職員は守秘義務や個人情報の保護についても理解している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の入居者との交流の中から希望を聞いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせたケアを心がけているものの、職員側の都合を優先しがちな時間もあるため、見直していく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に合わせて、近所の美容院の利用や髪を染める手伝い等をしている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に、食事の準備や後片付け等を無理のない範囲で行っている。	職員は利用者と一緒に食卓につき、会話を楽しみながら食事を摂っている。また、利用者は食事の準備や後片付け等、個々の能力に応じて取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの状態を把握して、食べやすいように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、入居者一人ひとりに合わせて、見守り・一部介助といった対応を心がけている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの状態に合わせて、おむつ・リハビリパンツ・尿とりパッドを使用している。また、尿意・便意を見逃さないようにしている。	利用者の排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら、声かけや誘導等、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行い、便秘気味の方には水分を多めに摂取することを勧めている。また、牛乳やヨーグルト等でも対応している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回、午前から夕方まで入浴の時間帯を設け、入居者の希望を取り入れながら、入浴できるように心がけている。また、介助は同性ケアを心がけている。	各ユニット毎に週2回の入浴日を定め、利用者の好みに対応して入浴支援を行っている。また、羞恥心に配慮して同性介護を行っている他、入浴を拒否する方については、声かけを工夫したり、時間をずらす等して、柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた枕や布団を使用している。ベッドの配置も工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの服薬状況について、薬局からいただく『お薬情報』を読み、確認している。特に、安定剤や眠剤に関しては留意しており、必要に応じて医師の指示をいただいている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の世話、おぼん拭き、食器拭き、洗濯物たたみ等、ホーム内で役割を持っていただくように支援し、入居者は生き生きとした表情をしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出計画を立てたり、行事への参加や通院の帰りに個人的に買い物をする等しており、家族からの協力もいただいている。	天候の良い日はできるだけ野外に出て、散歩する機会を設けている。外出先は利用者の希望に沿えるよう努めており、状況に応じて、小グループに分かれて外出する等、工夫をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自身で管理可能な方がいないので、事務所にて職員が管理している。外出時や通院時には、職員がお金の支払いを支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族へ電話をかけることができ、対応に努めている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるような飾り付けを心がけており、夏場はすだれを利用して光や温度に気を配っている。また、加湿器も使用し、湿度にも配慮している。	共用空間にはソファやテーブルが配置されており、利用者が自由にゆっくりと寛げるようになっている。天窗からの光や熱を調節するため、すだれ等で適度な明るさや温度が保てるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けソファや長ソファを準備し、その時その時の入居者の状態に合わせた生活ができるように工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物（飾り物・ギター・テーブル等）を持ってきていただき、自分の部屋を認識しやすいように工夫している。	仏壇やベッド、写真等の馴染みの物が持ち込まれ、利用者が居心地よく生活できるよう、職員も支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に、トイレや洗面所の場所を混乱することが多いので、見えやすく太字で印を書く等、工夫をしている。			